

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)
／西田 威汎

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

絵画Ⅰ、絵画Ⅱ、絵画特別演習Ⅰ、初等中等教科教育実践Ⅲを担当する。現場の教育実践を考慮してモチーフの選定とモチーフの設営を、学生に参加させて実行する。描画材料や支持体についても研究し、現場に於ける制作に役立つようにしたい。また、適切な参考作品等を紹介したい。

2. 点検・評価

絵画制作の立場から、描画材料や支持体や表現技法に付いて指導を行った。現場の教育の実際を想定しながら、モチーフの選定や課題を提供してきた。モチーフの設定にも現場での実践に役立つ様に、学生全員に参加の下で話し合って決定した。また鑑賞教育の面からも、適切な参考資料を提供したり、美術館へ同行し、作品について討議した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

絵画制作の指導はもとより、制作の悩みや就職活動、展覧会や発表場所、その他大学生活全般についても、学生の相談に適切に対応したい。

2. 点検・評価

絵画制作指導は充分に行った。就職活動等については、就職支援室から送付されるデータ等をコピーし配布する等情報を提供した。国展の若手育成の為の企画展に学生を推薦したり、個展やグループ展に出かけては制作の悩みや指導を行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

今回は油画制作を中心に研究を進めたい。細密な描写表現に最適な下地の研究を進め、これまでの航跡のテーマに加え、風景や人物画の研究も行いたい。これらの成果を4月～5月の国展や8月～10月にかけて、東京、京都、大阪、JR名古屋高島屋美術画廊で開催する個の地平展(グループ展)に発表する。

2. 点検・評価

国展を始め<個の地平>店では東京・大阪・京都・JR名古屋高島屋美術画廊で発表を行った。ホキ美術館に作品が常設展示されたり長谷川町子美術館に収蔵されたりした。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

本学の教員として、出来る限り大学の運営に協力して行きたい。現在は学部教務委員会委員であるが、充分に取り組んで行きたい。

2. 点検・評価

学部教務委員会委員として積極的に取り組んだ。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属校実習授業に参加し指導助言を行いたい。
国画会の会務委員として、会の運営に積極的に参加し改革を進めたい。
徳島県立近代美術館協議会会長として、館の運営や発展に寄与したい。
JA主催全国交通安全ポスターの徳島県審査委員長として小・中学生の作品を審査し、交通安全と美術教育に貢献したい。

2. 点検・評価

掲げた項目のうち附属校実習授業への参加が、出張と重なったりして出席できなかった。その他の項目については十分な成果を上げる事が出来た。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)